

## あいち多文化共生タウンミーティング 2019@豊田 開催結果報告書

2020年1月19日（日）、あいち多文化共生タウンミーティング 2019@豊田を開催しました。今回のタウンミーティングは、愛知県芸術劇場との共催で演劇ワークショップを行いました。日本、ブラジル、ベトナム、ムスリム、フィリピンなど、様々なルーツを持つ計25名の方にお集まりいただきました。開催結果を以下にまとめましたので、御覧ください。

### 開催概要

テーマ 多様性あふれる若い世代とつくる、これからのまち

場所 豊田市民文化会館 大会議室 （豊田市小坂町12-100）

日時 2020年1月19日（日） 午後1時から午後4時まで

講師 ひだ のりふみ  
飛田 勤文 氏

（演劇教育・応用演劇実践家、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助教）

### 演劇ワークショップ

演劇ワークショップは、簡単なゲームから始まりました。様々な国の言葉を使って言葉のキャッチボールをしたり、身体を動かし、声を出しながら、ゲームを進めていくに従い、参加者のみなさんの緊張も徐々に解れてきました。



次に、4～5名のグループに分かれ、講師の先生が出したテーマを一つの静止画で表現しました。テーマは、「家族写真」、「公園」、「多文化共生」などでした。下の写真は、「多文化共生」をテーマにした静止画です。左側のグループが表現した静止画では、嬉しそうに手をつないでいる人、手をつないでいるけれど悲しそうな顔の人、手をつながずに輪の外から見ていただけの人、いろいろな人がいます。右側のグループが表現した静止画では、悲しそうに座り込んでいる人を笑顔で手をつないでいる人が囲んでいます。参加者からは、「（右側のグループは、）誰も悲しそうに座り込んでいる人のことを見ていないね」、「全員が手を繋いでいるグループはないね」など、様々な意見が出ていました。



次に、「多文化共生」をテーマに愛知県内の自治体が作成した映像を視聴し、映像を見た感想や、これまでに経験した「これって多文化共生ってこと？」と思うことなどを、話し合いました。外国にルーツのある参加者には、自身の経験などを話していただきました。それぞれの経験をもとに、各グループで、多様なルーツを持つ人が、気持ちよく暮らせる地域について考えました。



それぞれのグループで話題になった経験の中から、特に印象的な経験の一場面を選び、簡単なセリフを考えて演劇をつくる準備をしました。右の場面は、ムスリムにルーツのある参加者の一人が経験した話です。クラス全員の前で、“通学用に使っていた黒色の大きなリュックが怪しい”という理由で先生に手荷物をチェックされています。日本人生徒役は、その様子を遠巻きに見ています。



左の場面はブラジルにルーツのある参加者が経験した話です。部活動の大会の応援に来た母親が、日本人の母親の輪に入れずに離れて座っています。

それぞれのグループの演劇をみて、参加者同士、「これからこの地域がどんな地域になってほしいか」「改めて、多文化共生ってなんだろう」などをテーマに意見交換しまし

た。参加者からは、「多文化共生」という漠然としたテーマに対して、身近な出来事から深く考えることが出来て良かった等の意見も出ていました。

## アンケート結果（一部抜粋）

※回答数 16 名

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。（複数回答有り。）

チラシ	3
県のホームページ	1
facebook	3
知人からの紹介	7
メール	1
その他	1
無回答	0

### 【その他】

愛知県芸術文化センター、刈谷市国際交流センター、愛知県芸術劇場

2 ワークショップはどうでしたか。(一つ選択)

とてもよかった	14
よかった	1
ふつう	1
よくなかった	0
全くよくなかった	0
無回答	0

2-1 感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

活動を進める上での参考になった	12
これまで知らなかった話を聞くことができた	5
聞いた事がある話ばかりだった	1
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	8
テーマについてもっと知りたいと思った	4
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	7
その他	4
無回答	0

【その他】

- ・演劇が楽しそうだった。
- ・参加者同士での情報交換（実際にこういうことがあった。こういうふうに感じている、といったこと）が勉強になった。

3 今後、今回のようなタウンミーティングでテーマとしたいこと、やりたいことなどがあれば教えてください。

- ・今回のようなテーマでよいと思います。
- ・西洋音楽を中心に学んできた者にとって、他文化を自分に落とし込むという活動はすごく当たり前になってしまっていて、「共生」という意識がとっても薄いということに気が付

きました。だけど、他文化を自分の専門とする人の、他文化への意識を共有するみたいなテーマでもタウンミーティングはできるのかなと思いました。

- ・「多文化共生」という漠然としたフレーズに対する考え、意見はみなそれぞれ違うけど、同じ意思を持っている。こういった人たちが増えていくだけでも、すごく嬉しいことで、共生をするにあたって一番大事だなと思いました。
- ・貧困家庭の現状を劇で知りたい。
- ・学校だけじゃ分からないことがあったり、家などで勉強していても聞かないと分からないところなどがあるので、学生の立場から見て、勉強会などをひらいてたらいいな～って思いました。
- ・最初のとりかかりとして、長久手市でも何かやることができればと思いました。
- ・いろいろな形（今回の演劇だったり）のワークショップに参加してみたいと思いました。私たちの市は多文化共生の分野はまだまだですが、いつか一緒にこのようなイベントをしたいです。
- ・外国にルーツのある人とのイベント。
- ・外国人向けの情報やガイドラインの配布場所/設置場所をもっと身近なところに増やして欲しい。（例えばコンビニのフリーペーパーラックなど）
- ・多文化共生をもっとやりたいです。演劇手法はいいですね。

#### 4 回答者様についてお教えてください。

市町村職員	2
市町村国際交流協会職員	0
民間、NPO 団体等	1
ボランティア・個人	2
企業関係者	5
その他	6

【その他】会社員(2人)、フリーランス、大学教員、演劇関係者、教員

## おわりに

あいち多文化共生タウンミーティングは、「愛知多文化共生推進プラン 2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしています。日頃、多文化共生に関心を持って活動していただいている方も、そうでない方も、どなたでも参加していただくことができます。来年度も開催を予定していますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。



愛知県多文化共生シンボルマーク

多文化共生の社会づくりについて広く県民に親しんでもらうため、2013年度に決めました。